
*** 大好き ***

* miina *

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

* 大好き*

【Nコード】

N1653J

【作者名】

* minna*

【あらすじ】

泣き虫『坂本 優美』が

朱莉ちゃんの友達の

『綾瀬 蓮』さんに出会って、

いろいろなことが起きる

恋愛物語

出会い

「優美！！学校遅れるよ！！！」

「うええええん！！待ってよー！朱莉ちゃん！！（泣）」

高校入学式当日・・・早速寝坊の私。

ほんと私ってバカアアアア！！（大泣）
用意がおわって朱莉ちゃんの車に乗る。

あ、朱莉ちゃんは私のおねーちゃんの『坂本^{さかもと}朱莉^{あかり}』ちゃん
で、なんでもできるOLさん

「ほら！優美！ティッシュ！って何その顔！！（笑）」

「笑わないですよ（泣）」

そう言っつて私の泪でぐしゃぐしゃの顔を
ティッシュでぬぐってくれた朱莉ちゃん。

「ほら！ついたよ！行ってきな！」

「うん・・・グスツ・・・（泣）」

「先生には電話しといてあげるから！」

「ありがとう・・・」

「そんなに落ち込まないの…じゃあ行ってくるね？」

「うん…バイバイ…」

朱莉ちゃんは『バイバイ』と手を振って会社にむかった。

『キーンコーンカーンコーン』

「ぎゃ！大変！速く行かないと！！」

走ろうとしたその時……………

「どうしたの？そんな焦って（笑）遅刻？？」

スーツを着た若い男の人に声をかけられた。

「は、はい……………」

「そっか（笑）俺も」

「そ、そうですか……………」

怪しげな顔をしていたのか、彼は、

「あ！俺怪しいもんじゃないから！！；

俺の名前は『綾瀬 蓮』よろしく」

「あ、私は『坂本 優美』です。よろしくお願いします…」

「じゃあ優美ちゃんって呼んでいいかな？（笑）って．．．ん？坂本 優美！？」

坂本 朱莉の．．．妹？？」

「え？あ、はい；」

彼．．．いや、綾瀬さんは驚いた顔でこっちを見ていた。つてゆーかなんで朱莉ちゃんのことしってるんだろ；

「へえ あ、てゆうか優美ちゃん速く行かなくていいの？？」

「あ！！ヤバツ．あの、また今度お！！！！；」

走って入学式の会場に向かう私。
入学式に遅刻なんてサイテーだよオオオオ（大泣）

家

「ただいまー；（疲）」

「おっ帰りー」

『あ．．綾瀬さんの事朱莉ちゃんに言ってみようかな？？』

「朱莉ちゃん．．．」

「ん？なに？？」

「今日ね？」「綾瀬 蓮」ってゆう男の人に学校の校門で声かけられたの……」

「え！？」「綾瀬 蓮」！？」

朱莉ちゃんは、驚いた顔で言った。

綾瀬さんも私の名前聞いた時驚いてたな……
やっぱり知り合いなのかな……？

「う、うん……」

「綾瀬君は、私と同じ会社で働いてる子だよ？（笑）」

「え！？そーなの！？」

やっぱり知り合いだったんだ！！

「うん。でもなんて声かけられたの？？」

「なんか、遅刻しちゃったの？？って言われて……うん。って言うたら、

俺もって言われた……」

「なんじゃそりゃ……」

「でねでね？なんか私の名前言ったら、

坂本 朱莉の妹！？ってビックリされたの……」

「そっか（爆笑）」

なぜか爆笑の朱莉ちゃん．．．；
でもなんか距離が縮まった感じ．．．
カツコよかつたし
つて！私なに思ってたの！？
スキじゃないのに！！
でも．．．友達には．．．なりたいな．．．；

学校

『今日は会わなかったな．．．』

ちよつと落ち込んでいるとき．．．

「おはよ！えつとー．．．あ！優美ちゃん！」

「え？？」

声をかけてきたのは、同じクラスの．．．えつと．．．；

「私は『遠藤^{えんどう} 有紗^{ありせ}』よろしくね」

あ！そうそう！遠藤 有紗ちゃん！

すっごく可愛い．．．あこがれちゃう！！

「私の事は「有紗」でいいから）＾）」

「わかった 私の事も呼び捨てでいいよ）ゝ）」

「うん そのつもり」

そして、はじめての友達ができちゃった
まだまだいっぱい作りたいな

「あ！ねえねえ！優美！」

「ん？どうしたの??」

「今日帰りにクレープ食べに行かない??」

「うん！いくいく！！！！」

帰り

「ん ！！おいしーい！！！！」

「でしょ！？このクレープ凄く人気なの！！」

「へえ」

クレープをほづばっているよ、

少し遠くに……

「ねえ！優美！あの人かっこよくない!?!」

「え???」

有紗が言う方を向くと……

「あ！あの人！！」

そこには朝会った蓮君が！！！！

「なに？？知り合い??」

「え？いや……知り合いとゆーかなんとゆーか……」

朝あつたことを有紗に全部言っちゃった。

「それって……」

「ん??どうしたの??」

「それって……ナンパじゃない??(汗)」

「え??……」

嘘オオオオオオオオ！？わ、私ナンパされたのオオオオオオオオオオオオ！？

あんなカツコイー人に！？

「どーどーどーどーどーどーしよー！ー」

「どーしよって……」

私焦つてると……

「あれ??優美ちゃん??」

「え???.」

そこには . . . 綾瀬さんが!!! ; ; ; ; ;

「わつつつ!!!(驚)」

「あ!ごめん!ビックリさせちゃった??;」

「い、いいえ;」

「ん?隣の子は . . . お友達??」

「あ、優美の友達の「遠藤 有紗」です」

「よろしく あ、優美ちゃん今日はまにあった??(笑)」

「あ、はい」

「それはよかった」

え???心配してくれてた??

まさか . . . ね???.

「あ!これ俺の連絡先ね」

「あ、はい . . . って!え!??」

れ、連絡先もらっちゃったアアアア!!
ど、どーしょ!!--!!

「い、これ…」

「ん？（笑）なんかあったら連絡して じゃ、俺まだ仕事あるから じゃあね 三」

ばいばいと言って綾瀬さんは行ってしまった。

部屋

「ん……これ……ど……しよオ……（汗）」

今悩んでるのは、今日もらった綾瀬さんの連絡先……
メ・ルしようにもなに話でいいかわかんないし……

『プルルルルル 』

「あ！メ・ルだ。誰からだろ………って……え！？綾瀬さ
んから！？」

私おしえてないのに！！；「」

「優美！？」

「あ、はい！！（驚）」

私がいきなり大声でしたから朱莉ちゃん
ビックリしちゃったみたい；

「下まで声聞こえたよ??もう少し静かにして?..」

「うん…ごめん…」

朱莉ちゃんは少し笑いながら
部屋をでた。

なんで笑ってるんだろ…；；

「で…なんで私のアド知ってるんだろ；

まアいいや；見てみよ；」

『こんばんは

いきなりメルしてごめんね；（笑）

アドは優美ちゃんのお姉ちゃんから

聞きました（^^）

かってに聞いてごめんね；

返事待つてまーす』

「あ…；だから朱莉ちゃん少し笑ってたんだ；

でも、なんて返信すればいいんだろ；」

『こんばんは^^

少しビックリしました^^；

あ、お姉ちゃんに綾瀬さんのこと

少し聞きました

いろんな意味でビックリです；

でも友達になれたらいいなー…みたいな…』

「で、いいかな；…；送信；」

『プルルルル』

思ったよ；

じゃあまたメールしようね^^

ばいばい 『三』

「私・・・綾瀬さんと友達になれたの・・・??？」

やったア (> <)!!

なんか凄い嬉しいな^^

「優美ー！お風呂は入って

寝なーア？」

「はーい！；明日も

会えるといーなア」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1653j/>

* 大好き *

2010年12月18日18時02分発行